

# 金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
「また明日」 たった五文字が愛おしい記憶に残るは花火より君	相手のことしか覚えていないというところに共感 今も昔も若者の感覚は同じですね。
メイクする動機をくれたあの人は今日も素顔で笑いこける	素顔ってというのはメイクの対比であるとともに、飾らない表情を見せてくれるってことでしょうか。「あの人」を見つめる視線やその感情、関係性が想像できてとても好きです。 切なさを感じる 「メイクをする私」と「すっぴんのまま『笑いこける』あの人」という対比が好きです。「笑いこける」というワードチョイスが絶妙だと思います。軽やかさがあつ、つ、「あの人」に対する少しうめしい気持ちも垣間見える気がします。 みずみずしい感覚
「何時から参加します」の通知見る忙殺の対極にいる僕	私も「対極にいる」側の人間なのでめちゃくちゃわかります。「何に」参加するのか明示されていないことで、より多くの人の共感を呼べるようになっているのいいと思います。 どこか申し訳なく思ってしまうのは、私だけでしょうか？
ふと君のこと嫌になる音楽の途中に挟まる広告みたく	広告が挟まるタイミングと相手に嫌気がさすタイミング、いいところで不意に迎える点が似ていると気づかされました。その世界に陶醉しているともいえますが。 YouTubeでしょうか。上手い比喻だと思います。
長すぎる信号待ちにこの街ごとぶち壊れると思う金曜	金曜日って華金と言われるほど他の曜日に比べればウキウキしていそうなのに、信号待ちの長さで街をぶっ壊すぐらいイライラしているのが面白かったです。
この世界変えてみせようささやかな野望抱いて買う赤い傘	「この世界」にさまざまな意味を重ねる余地があるのが良い。中盤の「変えてみせようささやかな」はひらがなが多く柔らかい印象があり、希望や活力を感じさせる。
あの言葉あの表情もあの声も神様どうか忘れさせないで	あの人が、恋人なのか家族なのか自分に置き換えて浸れるのがいいと思った
教室で弾けんばかりの高い声自分の顔に焦りと笑みが	教室で繰り広げられるは恋愛話でしょうか？それとも就活などの進路の話でしょうか？相手の話を傾聴し、感情を共有することに喜びを感じる一方で、ふと焦燥が襲ってきます。
今日もまた何もできずにスマホ置く見上げる先に翳る満月	満月に浮かぶは、いつか描いた未来の自分か、それとも輝かしい朋輩の姿か。いずれにせよ、今の自分は光から遠ざかっているのだと、自己嫌悪に陥ります。
まだかなあそわそわと待つ二人前今年の鍋は初めての味	鍋を待つ高揚感が伝わってきます
「あ」の一字予測されて一言目思い込もらぬ感謝の五文字	予測変換を「思い込もらぬ」と表現するのが、最近就活等で事務的なメールを書く機会の多い私に刺りました。ラインでも予測変換に頼りっぱなしだなと思うとともに、言葉の重さについて少し考えてしまいます。 いろいろと考えさせられました。社交辞令の挨拶もそうですが、予測変換の積み重ねともいえる文章に、一体どれだけの思いがこめられているのでしょうか？
旧字体弾くシステム何様だ人の名前を『?』にするな	旧字体の表示に対応できないものに対する憤りがひしひしと伝わってきます。
「眼の裏を見せて私も見せるから」「メガネのレンズも交換しなきゃ」	メガネのレンズも交換しなきゃがいい 眼の裏を見せ合うという不思議で不可解な行為に続くのが、メガネのレンズを交換するという事務的、義務的な作業なのが、意外性があるとおもしろいと思います。

# 金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
待ちわびて深く吸い込む星月夜胸の奥にてパチパチと鳴る	何がパチパチと鳴っているのか気になります
使用済み電池が並ぶ棚の上一人暮らしの弾薬庫かな	一つの現象を切り取った素朴な歌だが、それ自体のリアリティもさることながら「弾薬庫」のインパクトがすさまじい。一人暮らし、という若さを感じる言葉からその弾薬庫が出て来て、「かな」で結ぶという緩急が印象的。
居眠りを始めた瞳の弧に触れる花ざれみたいにきれいな半円	瞳のカーブを弧と表現しているのが面白くていいなと思いました。
君の首元で眠った南京錠首飾りの鍵は僕が飲んだ	飲んだという表現がいい
卒論のテーマさえまだ決まらないのに社会は「ガクチカ」だとか	ごもっともです。「ガクチカ」、本当に何も無い・・・
「初めてのお酒は親と飲むから」とじゃあ私が今から君を産む	現代オタク的感性が恋心に昇華されている
	君を産むがいい
木枯らしがメタセコイアと顔なでる紅葉とともに赤くなる頬	総合教育棟の前の雰囲気ですね
オリオンの3つの星を奪い取りGPAの足しにしてやる	金沢大学にいて、澄んだ空と星の輝きにハッとします。この時期は特にオリオン座の3点がとてもくっきり見えるのですが、それが「GPAの足し」というロマンも何もない願いに重ねられていて笑ってしまいました。
	勢いがいい。「奪い取り」という表現も野心を感じさせる。
	「オリオンの3つの星を奪い取る」なんて大胆で壮大な上の句！奪い取ってどうするの？と思ったところに「GPAの足しにしてやる」というなんとなく拍子抜けするような滑稽さ。上の句の規模感に対する下の句の飛躍が最高です。でもGPAって大事ですからね。大学生だからこそ共感できます。
祖母卒寿あと七十年生きてくれおれが死ぬまで祖母でいてくれ	人の温かさを感じる
	祖母側の気持ちで読み、感動しています
役立たずなときも静かに微笑んで箸置きみたいな人になりたい	ただそこにいるだけで少し華やかになるもの、ちょっとした楽しみになるものとしての「箸置き」。なるほどなぁと思うとともに、その人自身の生活が見える気がしてとてもよいです。「役立たず」という厳しい言葉を使うことで歌の穏やかさが引き立てられていて、雰囲気も好き。
	謙虚で素直で作った人の人柄がよく現れていると感じました。私もそんなふうな歌を詠める人になりたいなと思います。
	「箸置きみたいな人になりたい」という下の句が大好きです。箸置きて決して主役ではないけれどあるとちょっと嬉しくて、丁寧に生きようと思えるようなものですよね。詠み手の方の優しく暖かい愛が溢れ出ていると思います。
	「箸置きみたいな人」というのが面白い。
	私も箸置きが好きです
22時重たい足で地面打ち駆ける家路は月面のごと	疲労や不安を、進むエネルギーに変える描写に「月面」を持ち出すこと、暗く影ばかりある家路の描写と重なってとても素敵だと思いました。
「暖房は？」「もったいないからつけないよ」「じゃあもうちょっと近くに来てよ」	「じゃあもうちょっと近くに来てよ」って意地悪で可愛すぎませんか。なんかお互い駆け引きしてるみたいな関係性を勝手に想像しました。

# 金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
この講義真面目に聞けばおもしろおもしろおもしろおもしろおもしろおもしろ	応募作品の中で個人的に一番びびっときました！詠み手の方がどれくらい考えて作られたか歌がわかりませんが、一見不真面目なようですごく考えて作られている短歌だなと勝手に思いました。「真面目に聞けば」と言っているのに「おはよう」と言ってるってことは多分寝てますよね笑 この連続した「お」も、パソコン開いて寝ていたらキーボードを触ってしまっていて、画面に勝手に文字が打ち込まれている情景を彷彿とさせます。結句が「おはよう」で締めくくられる綺麗なオチ、感動しました。 おもしろいつてくるのかと思ったら、寝ちゃってておもしろいです
冬の道空が沈んで七時かと思えば五時で得した気持ち	アナログ時計だと時々見間違えることがありますね
二人して黙る癖にも慣れてきて沈む光をただ見つめてる	情景が浮かんできて沁みます
キャラメルが溶け切るまでは君のこと思い出してもいいことにする	思い出の内容が甘くて少し苦いキャラメルに託されているのがとても上手いなあと感じました。噛まないとすぐには溶けないし、歯に絡みついてくことも歌全体の雰囲気にかかってきて好きです。 君はキャラメルが好きだったのかな、と想像が膨らみました。忘れないといけなけれど、君の好きなキャラメルを食べる時ぐらいいいよねと自分に言い聞かせているように感じました。
雪の夜帰り道だけ遠回り君と別れる角を延ばして	ちょっと切なくなる感覚は忘れたくありません
冬服を引っ張り出せば懐かしい猫の毛が舞う一人暮らしに	猫を飼っている人特有の視点が表れていてとても満足感があります。猫がいないことに慣れてきただろう秋終わりというのもいいですね。かつての残り香が意図せず表れて思い出さずには、恋しがらずにはいられないという一瞬の感情の切り取りが質感よく表されてたいへん素敵と思います。私も猫飼いたい。 状況が私と一緒にとても共感しました。 ご実家で猫を飼われていることや、一人暮らしでの自立心と寂しさ、懐かしさが伝わってきて、ほっこりしました。 素朴で角がないが、切り取った現象に対して非常にマッチしている。自然な歌。
うら若き未開の原野を夢に見る凍れる海を見たくはないか	短歌のリズム、言葉選びから疾走感とドキドキ感を覚える。
暗闇に耳をすましてうずくまるそれが海だと信じるように	孤独と寂しさの中にある安らぎのようなものを感じました。ネガティブなだけでないひとりでぼっちというか、自分のためだけに時間というか。暗闇の捉え方がとても重層的で、歌全体のイメージに魅せられました。 リズム感がよくとても綺麗な歌だと感じました。プロが作ったのかと思うくらいでした。 「暗闇」を「海」だと信じる様、果てしない深度と暗さ、孤独を感じられる短歌だと思います。辛いときに寄り添ってくれるような短歌ですね。
夏の日に父の迎えを待っていた博物館の暗い入口	何か自分のことのように情景が見えてきます
方言を外せないのは言い訳で私の言葉を知ってほしいのよ	共感しました！
突然の雨どうせなら雷も霞も入れてセッションしろ	奇立ちを「どうせなら」と繋げていくのが破滅的でロックでかっこいいと思いました。 雨に降られてやけくそになる情景が浮かんでくる
雪見橋という名の橋が好きなこと柿を剥きつつ君に話した	日常風景の中に見える「君」との距離の近さや関係の穏やかさがとても素敵だなと思いました。雪が降ったら二人でその橋に行って雪を見るのかなと想像してみたり。そうした未来のことを含めて橋の事を「君」に話しているだろう主体の信頼、愛情が見えてほんわかしました。 固有名詞の力ですね

# 金沢大学附属図書館創作短歌フェス2025

・投票者からのコメントのあった作品及び作品に対するコメントを掲載しています。

作品	コメント
レジを終えページュの手提げに入れる柿人だかりから見つけるあなた	情景が自然に浮かんできました。ページュの中に沈む柿は色合いがとても綺麗で可愛らしいと思いました。
バス代に文句たれつつ右手には季節限定ほうじ茶ラテ（¥400）	（¥400）の表記がかわいらしい。物価高もあって日頃ケチケチしていても、ご褒美にはつい出費してしまうこと、よくわかります。 あるある。ご褒美です
秋の日に楽しみたいはもみじ狩りなれば優先すべき熊狩り	クマも生きるために必死なのだと同情しますが、市街地にまでクマが出没するようでは、もみじ狩りなど恐ろしくて、できたものではありません！
駄菓子屋で小銭使わすその母はブランドバッグ通販で買う	風刺的で好きです。駄菓子屋だったら千円札1枚で両手から溢れるくらいのお菓子を買えるのに、母親は「小銭」を使わせる。そして母親は私欲を満たすための「ブランドバッグ」を買う。なかなか想像では詠めない、実際にこういう場面に遭遇しないと詠めない短歌だと思います。